古賀市障害者施策推進協議会　会議録

日　時：平成 29 年 6 月 2 日（金）19：00～
場　所：サンコスモ古賀 201・202 研修室
参加者：委　員・・別紙名簿のとおり
　　事務局・・青谷部長、渋田課長、割石係長、小林、石井、大崎、吉武、渡邊

○協議会の主な流れ

１.古賀市保健福祉部長あいさつ　19：00～

古賀市においては、法に基づき２つの計画を策定しており、障害者基本計画（平成 27 年度～32 年度まで 6 ヵ年）は方針・理念を定めている。

障害福祉計画（第 4 期）は障害者基本計画の方針を踏まえ、具体的なサービスの提供体制について位置づけているものであり、3 年ごとに計画している。

今年度は平成 30 年度～32 年度までの 3 ヵ年の計画作成を行うが、委員の意見を伺いながら作成する必要がある。

国・県の方針を踏まえ、次回の協議会で具体的な内容を図りたい。

２.委嘱書交付（委員は非常勤の特別公務員の身分を有することになる）19：05～

・福祉部長より委員を代表し、占部 幸子委員へ委嘱書を交付。
　他、委員に対しては障害者福祉係員が各座席へ持参。
・全ての委員へ委嘱書を交付後、委員・事務局の自己紹介。

３.正・副会長の選出

・事務局案により会長を山﨑 不二子委員、副会長を安松 聖高委員で選出。
　（条例では選出については委員の互選となっているが、事務局案を諮る事に対し異議なしとの委員からの発言有。）

４.古賀市障害者施策推進協議会について 19：30～

割石係長より概要説明

5.「障がい者福祉プラン・こが」の進捗状況について

割石係長より参考資料を用いて概要説明

【質　疑】
（委員）
「障害者基本計画」との名称のわりには、内容を見ると高齢者の計画のようだ。
『第３期古賀市障害者基本計画』で間違いないのか？高齢者のことばかり書いてある。
２市１町障害者地域支援ネットワーク協議会の報告があったが、当事者に内容が伝わってこない。高齢者対象にやっているのかと思った。
（事務局）
この計画は、『第３期古賀市障害者基本計画』で間違いない。
２市１町障害者地域支援ネットワーク協議会については、サービス事業所等の障がい者と関わっている方に参加いただいているものであり、高齢者に向けたものではない。
障がい者の方が基本であるが、それを支える地域づくりを行うために立ち上げ活動している。
（委員）
支えることをやってもらっているという事で理解できた。
（委員）
構成メンバーは障がい者に関わる者であり、当事者ではないということでよいか？
（事務局）
事業所の方が多い。
（委員）
就労継続支援Ａ型、グループホームなど、施設が増え選択肢が広がるのは良いが、質の確認はどうするのか？当事者の視点に立った事業運営や、理念等をもっているのか疑問に思う施設も散見される。
（事務局）
事業所の指定をするのは県であるが、古賀市の意見として質の向上・維持は必ず心掛けていただきたいという事を意見書に記載している。
また、サービスの質を高めていくために、２市１町障害者地域支援ネットワーク協議会において研修会を開催するなどの取組みを行っている。
（委員）
要望であるが、「障がい者の高齢化への対応」において、現場では障がい者の高齢化を大きな問題と捉えている。他の部署の取組みについての記載はあるが福祉課としてのアプローチも今後は取り入れてもらいたい。
（事務局）
29 年度の取組みとして、コスモスネットに福祉課職員も参加するなど考えられる。

（委員）
法律上 65 歳以上は介護保険優先。障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行するときは、サービス料が異なるため現場は大変。法が違うのでしょうがないが、当事者にすると、今まで受けていたサービスが 65 歳になって急に受けられなくなることに納得がいかない方や、施設入所の方が高齢になった際の受け入れ先に不安がある。体制的な確認なども今後していただきたいと思う。
（委員）
ボランティア団体の課題はどんなものがあるのか？対策は何かあるのか？
（事務局）
相談事例としては、手話の会の会員は減っているが、市からの通訳要請は増えており、ステージ上での手話通訳を受けてくれる会員が増えないというものがあった。糟屋地区で開催している手話奉仕員養成研修に参加していただき、今後の活動につなげていけたらと思う。28 年度は古賀市から 1 名研修を修了された。29 年度は篠栗で実施する。
民生委員については役割の負担が大きいことが考えられる。障がい者の方によっては、民生委員にも情報を出したくないとの思いがある方もおられる。民生委員の問題に関しては、全国的な課題である。
（委員）
民生委員は年齢制限を外しても受け手がいない。団体の会長をしているが、PTA やサークルなど会には参加したくない。「自分のところだけ」という考えになってきている。それぞれに困り事はあるようだが、それを固まって大きな声にしようと言う考えはないようだ。若い人が入らず、縮小されているのが現状ではないか。社協ではボランティアの養成活動もされているが、なかなか上手くいかない。
（委員）
去年、当課で登録ボランティア 25 団体の内 23 団体に対しにヒアリングを行った結果、新しい人が入ってこない、人の入れ替わりがないという事が分かった。人が入ってこない要因として、本来ボランティアは自分の都合に合わせて活動するが、団体に所属するとその都合に合わせられないというのが理由。ボランティア養成講座もやっているが、20～30 名の受講生から 1 名ボランティア登録があるかという程度。
（委員）
私が所属する団体ではボランティア・当事者ともに高齢化。賛助会員がボランティアでガイドをやっていたが、今はガイドも資格がなければ出来ない。今までは善意で行えていたものが仕事になりつつある。先行きどうなるかは不安。
（委員）
私が所属する団体では役員がボランティアになっている。
（委員）
養成するだけでなく、対策・課題を見つけていかないといけない。

６.「第４期古賀市障害福祉計画」の実績について

小林業務主査より、参考資料を用いて概要説明

【質　疑】

（委員）

平成 26 年と 27 年について、相談支援の実績が大幅に下がっており、放課後等デイサービスは計画件数が下がっている。理由は？

（事務局）

相談支援に関しては、平成 26 年に関しては一般相談も件数に挙げていたようだ。昨年度報告分（平成 27 年度）から計画相談のみの件数を計上している。計画相談は、障害者福祉サービスは 427 件中 425 件。児童のサービスについては 149 件中 149 件。進捗率にするとほぼ 100%となっている。

放課後等デイサービスについては、もっと詳しく調べる必要がある。

（委員）

資料の見方と資料の連帯性、表現の仕方など統一したほうが良いと思う。

７.その他

（委員）

計画（案）については、早めに配布してほしい。

就労に関して、特支など進路に困っている。就労継続支援Ａ・Ｂ型の人数ではなく、療育手帳のＡ・Ｂの内訳や具体的な人数。ニーズがどのくらいあるのかというものを把握しないと計画は出来ないのではないか？可能であればお願いしたい。